

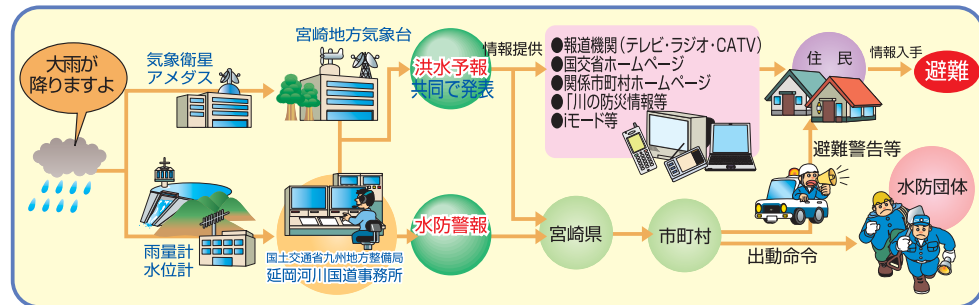
河川整備の実施

洪水時等の管理

洪水、高潮、地震・津波等による被害の未然防止及び軽減を図るため、地方自治体などの関係機関と連携して情報伝達や水防活動に取り組めます。

■河川情報システムの整備

洪水等による被害を軽減するために、光ファイバーネットワークの構築、IT関連施設の整備を行い、水位や雨量、監視カメラの画像等を迅速かつ正確に提供できるようにします。



■水防活動

洪水や高潮などにより災害が発生するおそれがある場合に河川管理者は、水防管理者である市町村長に通知します。それを受けた市町村長は水防団体（消防団）の出動を要請します。

■防災意識の向上

平常時から水防活動に万全を期するために、関係機関で組織する「五ヶ瀬川水防連絡会」や出水期前の合同巡視、情報伝達訓練、防災訓練等を行います。



五ヶ瀬川水防連絡会の開催状況

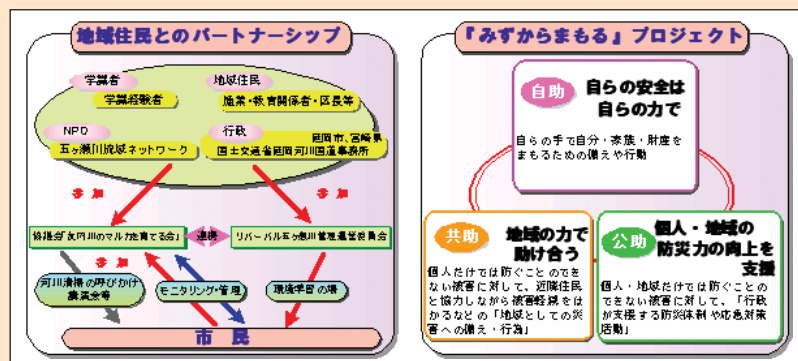
■危機管理

洪水等に対する知識・意識を高めることを目的とした五ヶ瀬川浸水想定区域図を元に市町村のハザードマップ等が分かりやすく作成・公表・周知されるよう支援します。



五ヶ瀬川浸水想定区域図 (H16.12.10指定・公表)

五ヶ瀬川の川づくりの進め方



■関係機関・地域の皆様との連携

五ヶ瀬川を常に安全で適切に利用・管理するため、より良い河川環境を地域ぐるみで形成することを目的に、収集した情報や河川利用に関するポスター、パンフレット、インターネット等により幅広くPR活動を行い、情報の共有化を行います。河川清掃やイベント等の地域住民の自主的な活動に対しては、安全で多数の地域住民が参加できるよう、活動に必要な河川情報を積極的に提供する等の支援を行います。

■地域住民の関心を高めるための広報活動

「五ヶ瀬川らしさ」を生かした河川整備を進めるため、ホームページやラジオ、ケーブルテレビなどの地元メディアや広報誌を利用して広く情報提供し、住民との合意形成に向けた情報の共有化、意見交換の場づくりを図るなど関係機関や地域住民等との双方向コミュニケーションを推進していきます。

さらに、自然体験活動等を通じて子どもたちへの環境学習を積極的に支援するなど、広く地域住民に五ヶ瀬川に対する関心を高めるための活動を行います。



地域住民による水生生物調査



<http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>

河川リアルタイム情報

水文水质データベース

ホームページアドレス

<http://www.1.river.go.jp>

川の防災情報

レーダー雨量情報・テレメータ雨量情報・テレメータ水位情報等を見ることができます。

ホームページアドレス

<http://www.river.go.jp>

iモードアドレス

<http://i.river.go.jp>

九州地方一級河川の雨量と水位などのデータが、各観測所ごとに見ることができます。

このパンフレット
に関するご意見
お問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局
延岡河川国道事務所 調査第一課
延岡市大貫町1丁目2889
TEL.0982 (31) 1191 (直)
E-Mail / nobeoka@qsr.mlit.go.jp



延岡出張所 (河川)
延岡市昭和町3丁目1930
TEL.0982 (21) 2955

五ヶ瀬川の明日を考える

五ヶ瀬川水系河川整備計画 (原案)

概要版



国土交通省 九州地方整備局
延岡河川国道事務所

五ヶ瀬川の概要

流域及び河川の概要

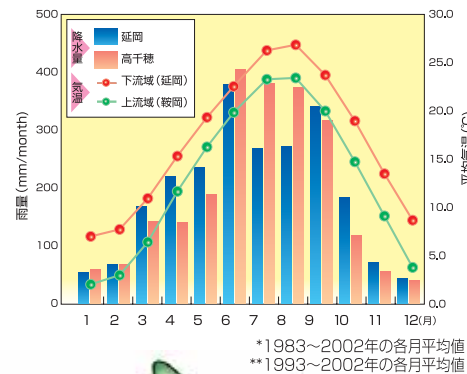
五ヶ瀬川流域には約12.8万人が暮らし、3県（2市6町）で構成されます。

- 幹線流路延長
106km
- 流域面積
1,820km²
- 流域人口
約128,000人

【五ヶ瀬川水系位置図】



月別の平均降水量*と代表地点の月別平均気温**



治水の沿革

五ヶ瀬川的主要洪水		
発生年月日	原因	
S18年 9月18日～20日	台風	
S29年 9月10日～13日	台風12号	
S46年 8月27日～30日	台風23号	
S57年 8月25日～27日	台風13号	
H 5年 8月 8日～10日	台風7号	
H 9年 9月13日～16日	台風19号	
H16年 8月30日	台風16号	
H16年 10月20日	台風23号	
H17年 9月 5日	台風14号	

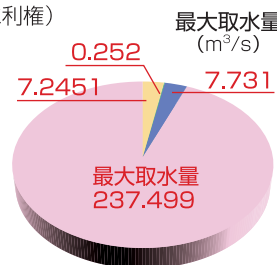
五ヶ瀬川における治水事業の沿革		
年月日	計画の変遷	主な事業内容
S 7年	総体計画の策定・計画高水流量 大瀬川3,000m ³ /s 五ヶ瀬川4,500m ³ /s 分流後の五ヶ瀬川1,500m ³ /s	・須崎町～方財町 隔流堤の基礎工事施工 (S29) ・市街地特殊堤工事完成 (S36)
	総体計画の策定・計画高水流量 三輪6,000m ³ /s 大瀬川4,500m ³ /s 五ヶ瀬川1,500m ³ /s 東海～河口4,500m ³ /s	・大瀬橋の高上げ工事完成 (S36) ・浜砂地区引堤・掘削工事完成 (S38年) ・鷺島地区護岸に着手 (S39年) ・浜砂排水機場 (S41年)
S41年	五ヶ瀬川工事実施基本計画の策定	・大瀬川引堤・護岸工事 (S41年)
H16年	河川整備基本方針の策定	・高潮堤防が完成 (S44年)
	計画高水流量 三輪7,200m ³ /s	・漏水対策実施 (S44年)

利水の沿革

五ヶ瀬川流域全体の農業用水としては、現在約2,400haに及び耕地のかんがいに利用されています。発電用水は22発電所で、最大約237m³/sを利用し最大出力約138,000Kwの電力を供給しています。大瀬川・祝子川・北川の下流部で工業用水として取水しており、流域全体で7.7m³/sの水利権があります。水道用水としては延岡市が大瀬川で0.252m³/sのポンプ取水をしているのみで、延岡市のほとんどの水道用水は地下水に依存しています。

五ヶ瀬川の水利用（許可水利権）

用水目的	件数
農業用水	2
水道用水	1
工業用水	3
発電用水	22
合計	28



五ヶ瀬川の現状と課題

治水

外水対策 昭和26年より直轄河川として改修を進め、国土交通省管理区間内の堤防整備を必要とする区間49.0kmの内、現在約76%完成しています。しかし未整備区間及び、流下断面不足により、市街部を含んだ広範囲で水位が上昇し甚大な被害が発生する恐れが残されています。また、五ヶ瀬川は大瀬川の分派・再合流及び河口部付近での支川合流といった複雑な河川形態であり、局所的な水位上昇等が発生しています。さらに五ヶ瀬川河口狭窄・閉塞等による流下障害が見られます。



五ヶ瀬川上流部（高千穂峡）



五ヶ瀬川中流部（天満橋付近）



五ヶ瀬川下流部（延岡市街）



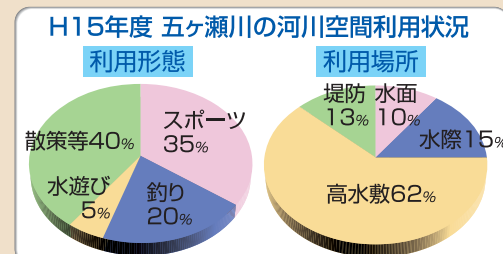
北川

堤防の安全性

危険性の高い箇所については随時対策を実施してきましたが、平成17年9月の洪水では、三輪地区をはじめ広い範囲で漏水が発生しています。堤防の背後地には人口や資産の集積が著しい箇所もあり、堤防の安全性の確保がますます必要となっています。

河川空間の利用

延岡市街部を貫流する下流部は、高水敷も広く、グラウンド、ゴルフ場等が整備され、住民の散策の場、憩いの場ともなっています。五ヶ瀬川の高水敷総面積は106.50haであり、このうち、18.71haが公園・緑地等として利用されています。利用形態としては日常的なスポーツ・レクリエーション等が主体となっており、花火大会やイカダ下りなどのイベントの場としても利用されています。



イカダ下り大会（延岡市）

アユやな（延岡市）

内水対策 近年の課題として内水氾濫対策が急務になっています。五ヶ瀬川下流部の背後地は、堤内側の地盤高が洪水時の河川水位に比べて低い地形特性を有しているため、平成5年8月、平成9年9月、平成16年10月洪水等において、内水被害が発生しました。また、平成17年9月洪水においては、本川及び北川、祝子川の広範囲において甚大な内水被害が数多く発生しています。

直轄管理区間堤防整備状況

直轄管理 区間延長 (km)	要堤防 整備延長 (km)	完成堤防	
		整備延長 (km)	整備率 (%)
28.5	49.0	37.4	76.3

高潮、地震・津波対策

昭和44年に高潮堤防は概成していますが、地震防災対策として東南海・南海地震などによる被害を防止するための対策が急務となっています。



漏水（野田地区）

河川環境

豊かな水量に恵まれ、大きな瀬や淵を有する五ヶ瀬川。水域には、カワアナゴ、カマキリなどの魚類が生息しています。

大瀬川にはアユの産卵場があり、水域には、カワアナゴ、カマキリなどの重要な魚類が生息しています。他にもオギやヨシが広がる等、多様な自然環境が残されています。



アユ

可愛岳、行藤山、松山一帯では、哺乳類や鳥類、ムカシトンボ等の希少な昆虫類が多く見られます。



ムカシトンボ（宮崎：準絶滅危惧）

河口周辺にはアカウミガメの産卵が見られます。

北川には湿地やワンドが点在し、70種以上もの重要な種が生息しています。一部では河畔林が発達し、アユの産卵場やカワセミ、ヤマセミ等も見られ河原では植物群落、竹林等が生育しています。



アカメ（準絶滅危惧）

汽水域にはコアマモ群落が形成されており、アカメなどの稚魚の生息の場となっています。

水質

五ヶ瀬川水系では、支川祝子川を除き良好な状況が続いています。特に近年の下水道整備により特に良好な状況です。祝子川についても、近年BOD（75%値）は改善傾向にあり、他の地点と同様の水質に近づいています

河川整備計画の目標

河川整備の実施

河川整備の基本理念

「アユおどり 神話いきづく」多様でより豊かな自然環境と流域の個性ある風土・歴史・文化を未来に継承し、より安全・安心な五ヶ瀬川流域

4つの柱

安心・安全な川づくり

清浄な水質を守り育む川づくり

川と人との関係や新たな出会いに配慮した川づくり

多様で豊かな自然環境と人々の生活に優しい川づくり

※本計画の対象期間は概ね30年としますが、社会経済情勢・技術革新等の変化により、必要に応じて適宜計画の見直しを行います。

河道掘削及び築堤工事

大瀬川地区

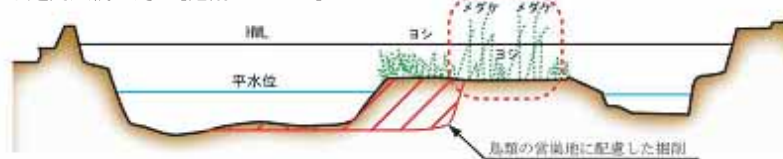
河道断面が不足している三須下流～安賀多においては、アユ等の生息に必要な瀬・淵の形態及び良好な河畔林について、可能な限り保全するように配慮しつつ陸上部の掘削を実施し、洪水を安全に流下させます。

延岡大橋下流部(0k000～2k400)の河道掘削においては、中洲のサギ類営巣地をできるだけ保全するとともに河口閉塞を解消するため掘削形状等を工夫します。

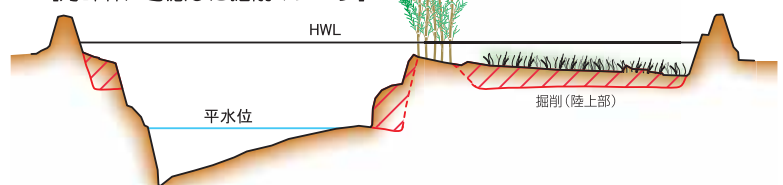
また、延岡市街部(3k600～5k200)については、河畔林が繁茂しているとともに、アユの産卵場となっている瀬への影響を考慮しながら河道掘削を行います。



●延岡大橋～河口[掘削イメージ]



●延岡市街部[河畔林に考慮した掘削イメージ]



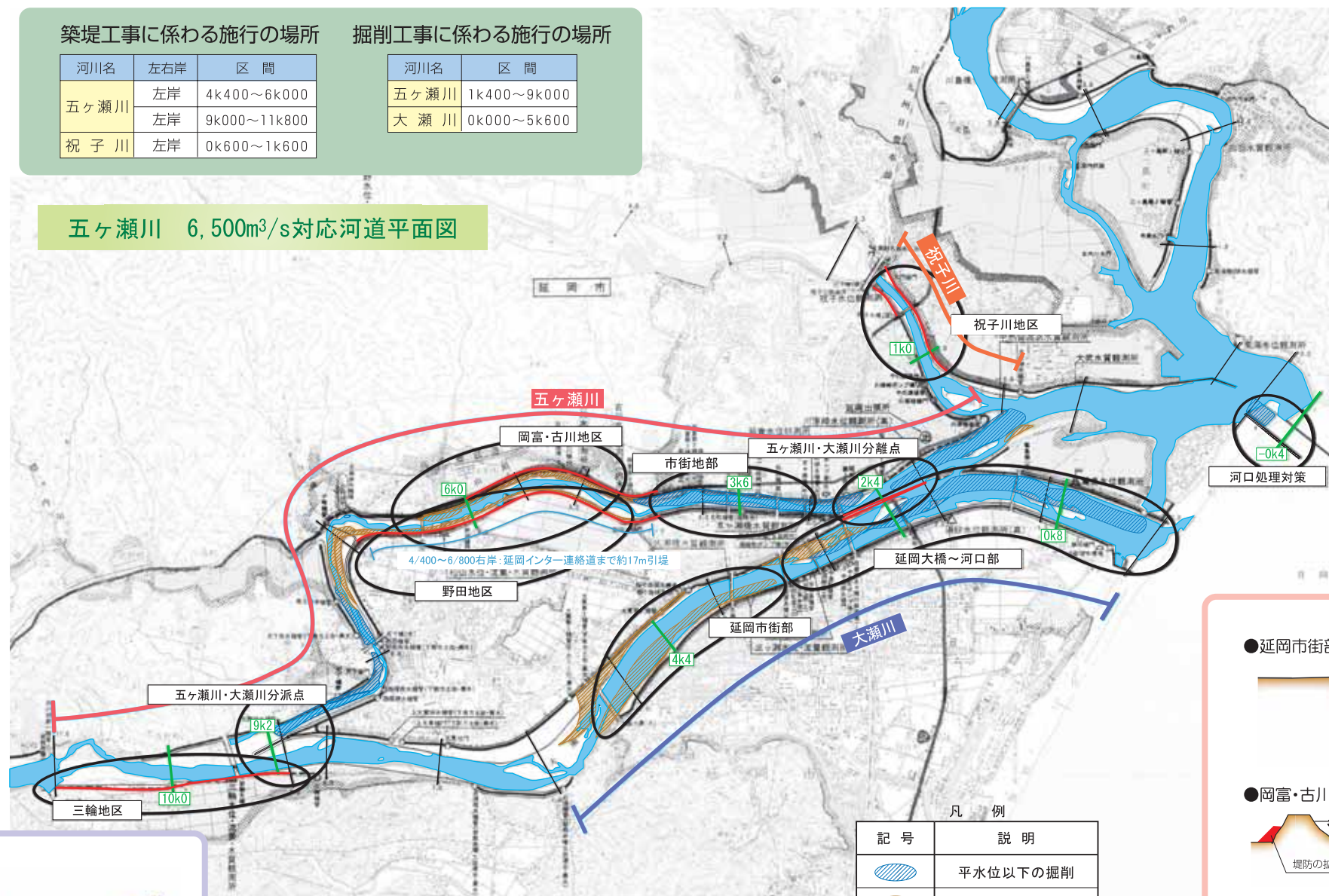
築堤工事に係る施行の場所

河川名	左右岸	区 間
五ヶ瀬川	左岸	4k400～6k000
	右岸	9k000～11k800
祝子川	左岸	0k600～1k600

掘削工事に係る施行の場所

河川名	区 間
五ヶ瀬川	1k400～9k000
大瀬川	0k000～5k600

五ヶ瀬川 6,500m³/s対応河道平面図



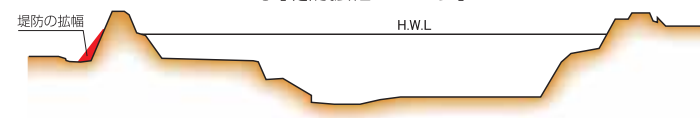
凡 例

記 号	説 明
	平水位以下の掘削
	平水位以上の掘削
	築 堤

祝子川地区

JR鉄道橋下流(0k800～1k600左岸、1k400～1k600右岸)については、堤防断面が不足している区間があるため堤防の拡幅を行い安全性を確保します。

●[堤防拡幅イメージ]



五ヶ瀬川地区

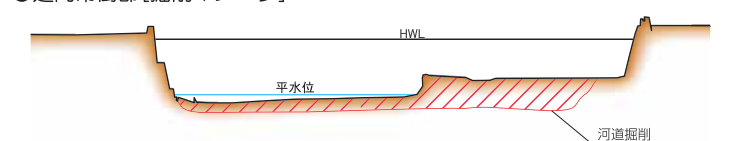
支川祝子川合流前から大瀬川との分派点までの延岡市街部においては、河道断面が小さいため、河道掘削を行うとともに野田地区(4k400～7k000右岸)については延岡インター連絡道路までの引堤を行い、洪水を安全に流下させます。低水路の拡幅、引堤にあたっては周辺の都市景観、河川空間・水辺利用に配慮し、また本来の河川がもつ瀬・淵など河川形態も考慮しつつ自然環境にも配慮した整備とします。

岡富・古川地区(4k400～5k800左岸)については、堤防断面が不足している区間があるため堤防の拡幅を行い安定性を確保します。

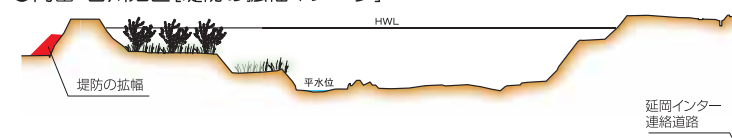
上流の野田地区(7k000～7k600)については河畔林などの自然環境に配慮しながら河道掘削を行います。

三輪地区(9k200～10k800)については、堤防断面が不足している区間があるため、堤防の高上げ及び拡幅を行い、安全性を確保します。

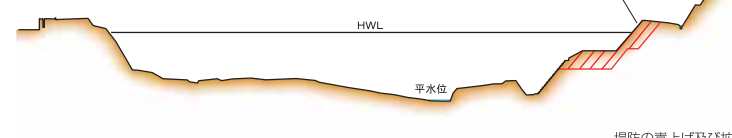
●延岡市街部[掘削イメージ]



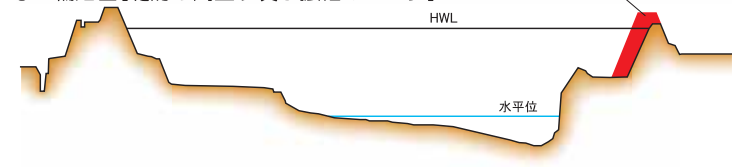
●岡富・古川地区[堤防の拡幅イメージ]



●野田地区[堤防の引堤イメージ]



●三輪地区[堤防の高上げ及び拡幅イメージ]



河川整備の実施

治水（河川改修）

河口処理対策



導流堤を施行して流下断面を確保します。また、自然環境を考慮しながら、河口閉塞が生じている河口については対策を実施します。

五ヶ瀬川・大瀬川分派対策



五ヶ瀬川と大瀬川の分派点において、洪水を適切に分流できるよう、分流施設により洪水を安全に分流させます。実施にあたっては、分派後のアユ等生態系への影響を考慮し、平常時の流量にも配慮して実施します。

堤防強化対策

堤防の安全性を確認するため、堤防の詳細点検を実施し、堤防強化対策が必要な箇所については、対策を実施します。

治水（内水対策）

床上浸水が発生する等の内水による大きな浸水被害の発生や予想される地域において地域との連携のもと内水対策を実施します。ただし、その実施については被害実績や浸水特性、土地利用状況等を十分勘案し、関係機関と連携・調整して必要な措置を図るとともに、内水対策により下流の被害を増加させないものとします。



大賀地区



川島地区



H17.9洪水時の内水被害状況

地震・津波対策

地震・津波対策については、発生が危惧される東南海・南海地震等の大規模地震による堤防等河川管理施設の安全性を検証したうえで、必要な対策を実施するとともに、津波による被害を防止するため、水門や樋管等の操作体制の確立や、必要な対策を図るなど、被災の防止・軽減を図ります。

橋梁の改築等



亀井橋（現況）

板田橋（現況）

桁下不足等により改築等が必要な橋梁（板田橋、亀井橋、鷺島橋、安賀多橋）については、関係機関と連携・調整しながら進めていきます。

五ヶ瀬川・大瀬川分離対策

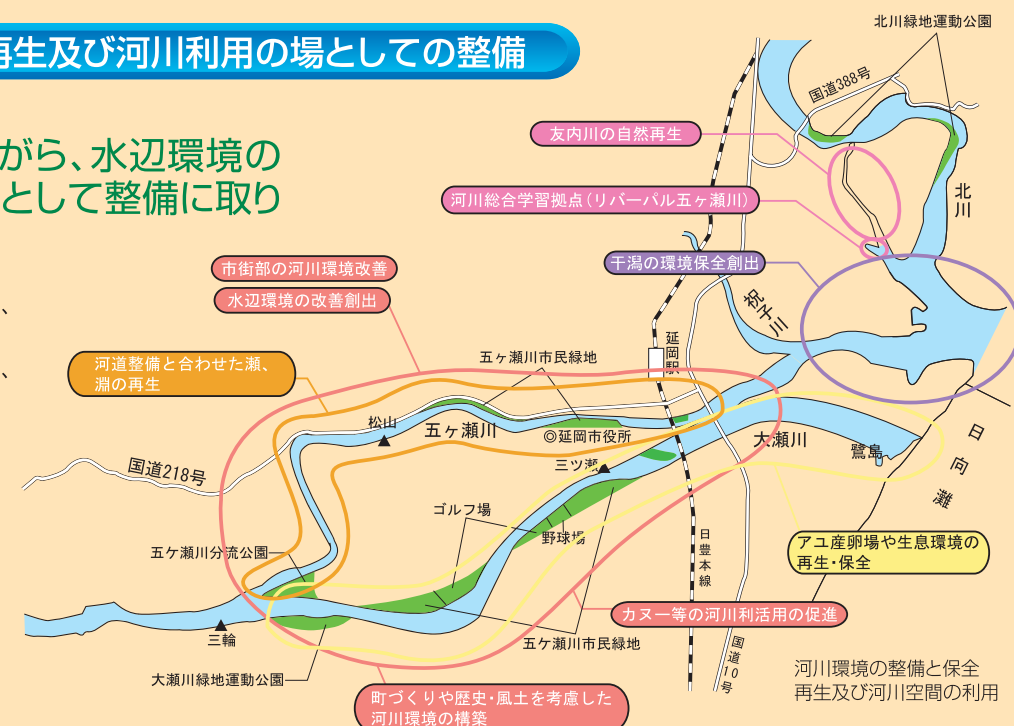


大瀬川の合流による水位上昇対策として、隔流堤により大瀬川と五ヶ瀬川の洪水を安全に流下させます。併せて大瀬川の河道掘削も実施します。

河川環境の整備と保全・再生及び河川利用の場としての整備

自然との共生に配慮しながら、水辺環境の再生・創出、環境学習の場として整備に取り組みます。

五ヶ瀬川流域の風土、文化、歴史を踏まえ、河川環境を次世代に継承するよう地域との連携を図り、良好な自然環境の保全、再生に努めます。また、積極的な活動の場としての利用が行われるよう、地域の要請に応じた保全や整備を行います。空間利用については、沿川住民にとって貴重な水と緑のオープンスペースとして親しまれていることから、人々が川と触れ合い、親しめる潤いある水辺空間の整備を進めます。



五ヶ瀬川下流部の環境整備



下流部右岸鷺島地区のヨシ原には、サギ類やガンカモ類が多く生息しており、堤内の耕作地と連携した一体的な活用や学習の場として関係機関と連携し保全の体制づくりを行います。

アユの産卵場・生息環境の保全



大瀬川と五ヶ瀬川は昔から稚アユの遡上と産卵アユの降下が有名で、アユやなほは延岡を代表する風物詩の一つとなっています。関係者等と協議しつつ水産資源及び観光資源としても重要なアユの生息生育環境の保全に取り組んでいきます。

友内川における自然環境の保全・再生



現在、友内川自然再生事業として地域住民と一体となった自然再生が実施されており、観察路の整備や河畔林の再生等を実施します。また、自然体験や環境学習の場として整備を進めます。

親水性の向上

堤防・護岸等の整備にあたって、関係住民の意見を聞きながら、みんなが安心して川に近づける階段・スロープ等の整備を積極的に進めていきます。また、河川敷公園、河原や湛水域等、人や自然がふれ合う空間について、カヌー活動や「アスリートタウン構想」とも連携した整備を進めていきます。

鷺島地区(五ヶ瀬川)0k600～1k200右岸)整備イメージ



岡富・古川地区(五ヶ瀬川)4k400～6k000左岸)整備イメージ

